二度と経験することのできない場所

弘前大学大学院　社会科学研究科2年

オギ・ジョンス・ダビット （インドネシア）

時々地元の人と話しをすると、たいてい話題は私の出身の様子についてです。季節とか果物などについてを主な話題として情報を分かち合います。彼らは私の出身の情報について関心を持っているらしい。彼らは直接私の住む場所へ一度も行ったこともありませんが、私は彼らが私の話を聞いて、そんなに関心があるのかと感動します。私の出身地にも同じ部分が少なからずありますが、弘前市と比べる資格はないと思います。自分の出身は良くないわけではありませんが、弘前市は自分の住む場所よりもすごく素晴らしいところだと思います。

何回か市内を歩き回って、地元の方々の活動を直接自分の目で見て、勉強になりました。ゴミなんかは決められる場所にしかないです。それは素晴らしいことではないでしょうか。公園も市民のために開放され、私は外国人ですが、運動をする時は、涼しい公園でやっています。

そして、リンゴも日本全国の人が、もしかすると世界の多くのリンゴを食べる人たちも弘前産リンゴを知っているかもしれません。確かに美味しくて、品種もいっぱいあります。私はリンゴ畑の景色を眺めるだけで、すごいなあと思います。そして、リンゴ畑に囲まれる緑の林を見るだけで、気持ちいいなと感じながら、本当に弘前市に来て短期間のうちに体験することができて、素晴らしい経験だと思います。いい所に来たなあという気がしています。

それから、桜といえばやはり弘前城がある弘前公園で育てられている桜が日本全国に有名な桜だと知られているようです。私はこの二年間，桜の花見祭りを楽しみましたし、日本国内の観光客もいっぱいやって来て、外国人の観光客も少なくなくて、本当に素晴らしいです。

また、春、夏、秋、冬全て体験することができてよかったです。季節が変るとたとえ冬の厳しさと夏などの親切さを直接感じられる。祭りも季節によってさまざま伝統的なあるいは、地域の文化を参加することができて、素晴らしいと思います。私は，この四季を体験することで、地元の方々は賢く立派になるはずだと思います。なぜなら、季節が変るとどのようにすれば、あるいは、どのように暮らせばよいのかをいつも考えて工夫しているからです。

全て良いことばかりではないですが、私の人生の中の一時期を，いろんなことを勉強し、自分の目で見て，感じ取ることができたこの地，弘前市は，自分自身の歩む道の歴史にきれいな所として書かれると思います。これからも、この素晴らしい経験を忘れずに、感じ取ったことを頭に受け止めて、自分の国、それから周りにいる友達たち、家族にぜひ伝えようと考えています。

私は HIROSAKER

弘前大学　人文学部特別聴講学生

金　恵珍（韓国）

私は現在弘前大学に交換留学生として来た金恵珍と申します。もうここに来てから五ヶ月も経ちました。まだ来たばかり気がするのに時が早いです。

初めて空港に着いた時見えたのは本当に畑と田んぼばかりで私と一緒に来た友達は言葉を失ってしまいました。「本当にこれからここで一年間生ていけるか」と思いました。幸いに畑と田んぼだけではありませんでした。どんどん建物も見えてなかなか都会のような姿が見えて「ここなら生けるかも」とホッとしました。今思い出したら笑ってしまいます。

今はもう弘前に慣れて高い建物や複雑な道路をむしろ嫌うことになりました。私の友達は、東京に行って非常に気持ちが不快になって青森に着いたらやっと楽な気持ちになったと言っていました。こんなに美しい自然に恵まれたところに住んでいる私たちは都会人ではなく、もう田舎の人になりました。ここはどこを見ても自然、どこに行っても自然、本当に自然ばかりです。それで私たちは恵まれていると思います。旅行に行ったらいくらでも東京や大阪に行けますが、青森には来ることはあまり易しくないので、むしろ良かったと思います。

夜になったら弘前の夜空はすごくきれいです。私はこんなに美しい夜空を見たことがありません。星がいっぱいの夜空を見ると幸せになります。また一番美しかったのが桜でした。四月に来てから日本で始めて見た桜は口で言い表せないものでした。すごく美しくて口が閉じられないほどでした。「日本に来て本当に良かった」とはじめて思った時がその時でした。夜桜もすごくきれいで寒さで震えながらも、うっとりと見ました。写真ではその美しさを全部納めることができなくて残念です。それで弘前の星と桜を私の心に納めて帰るつもりです。

私は今弘前大学国際交流会館という所に住んでいます。ここには韓国人はもちろん、色んな国の学生が一緒に住んでいてたとえ一人暮らしでも寂しくないのです。また他の国の人とも友達になって日本語を使って話せるのが面白いです。それぞれの自分の国の料理を作ってもらえ、ここは日本なのに色んな国の文化にも接することができて楽しいです。私は中国人の友達に日本語で韓国語を教えながら私は友達に中国語を教えてもらっています。本当に面白いです。

弘前大学には留学生の為のプログラムがたくさんあっていつも忙しいです。はじめて来た時は日本人の学生をチューターとして付けてくれて、より早く日本の生活に慣れることができました。またホストファミリーという日本の家族と本当の家族のように過ごせるプログラムがあって、申し込んで日本の家族に出会いました。私のことを娘のように考えてくれて本当に心強いです。ホストファミリーに出会ったことが私にとっては本当に大切なもので私の楽しみです。

ASOSA

留学生の声

　またホームステイのプラグラムもあって申し込みました。ホームステイができる連絡先の中で知り合った方がいて、その方の家に二泊も泊まりました。日本の家庭に泊まることは初めてで、とても楽しかったです。ホームステイの方はもう私の第二のホストファミリーになりました。

　弘前の国際交流センターの先生たちも優しいし、皆良い先生たちでここで勉強するのも楽しいです。弘前大学は本当に留学生のためにたくさんのことを準備しているようです。いつも留学生に気を使ってくださって感謝しています。また、こんなにお金でも買えない良い御縁をプレゼントされてくださってとても感謝いたします。

　毎日毎日ここの生活が楽しいです。これはここの人のお陰だと思います。私の良い友達チューター、愛するホストファミリー、いつも良い物があったら下さるありがたいホームステイのりんごおじさん、良い先生たち、それ以外でも弘前には人情厚い人々がたくさんいらっしゃって、私は幸せです。今は私も，もう弘前を愛することになってしまって、弘前が第二の故郷と思われます。それで私と友達は時々「私は Hirosaker」と言います。「Newyork」に住む人は「Newyorker」だから弘前に住む私たちは「Hirosaker」だという意味です。

　残った時間ももっと楽しく過ごしたいです。一所懸命勉強もしながら、良い人々と良い御縁作りながら、弘前で一生忘れられない思い出をたくさん作ろうと思います。今度の長い冬も楽しみにしてます。弘前大学へ来られて心から良かったと思います。

夢見る朝

青森大学大学院　環境科学研究科1年

王　辰（中国）

　朝7時、ラジオをつけて、ベッドに寝そべったままNHKニュースを聞いた。野球部の練習はもう終わったらしい、解散後の野球場からは何も聞こえてこない。炊飯器のボタンを押し、ニュースが終わる前に顔を洗ったり、布団を畳んだりした。枕元の日本語で書かれている小説を閉じた。夕べ、また本を読みながら寝てしまったみたいだなぁ。炊飯器のベルが鳴った。冷蔵庫から納豆を出して、よく混ぜてから温かいご飯にかけた。「うまい！朝ごはんは、やっぱり納豆が最高だなぁ～」

　このような場面が子供の頃から何度も夢の中に出て来ました。時の流れに伴って、この夢はだんだん現実のものになっていきました。そして一年ほど前、この場面はもうただの夢だけではなくなり、とうとう日常生活の一部になりました。平成20年の秋、ようやく寺山修司と奈良美智のふるさとである青森に来て、大学院生の一人として青森大学大学院での勉強が始まりました。どこででも日本語が聞こえる、いつでも好きな日本人作家の本が読める、アニメ、マンガ、ドラマ、映画、日本料理、さくら、祭りなど日本を代表するいろいろなものが私の目の前で繰り広げられています。

　毎日きれいな空気も吸えるし、おいしい水も飲めます。北京では見られない森と川が道の両側からよく見えます。青森はまるで公園のような都市で、その美しさにいつも元気づけられます。縄文時代の遺跡である「三内丸山遺跡」は静かな三内丸山から日本の歴史と文化を語りかけてきます。春祭りの合浦公園では日本を代表する桜と島国の特色である海を同時に愛でることができます。世界の火祭りとも言われる「青森ねぶた祭り」も。もうすぐ近かに迫まっています。

　青森では教室での授業だけでなく、野外実習、たくさんの部活、留学生向けの交流会……毎日やりたいことがいっぱいあるので、生活が充実しています。夏が終わると大学院の二年生になります、夢見る朝はまだ続いていて、これからも大学院の仲間と一緒に勉強を頑張りたいと思います。

日本に留学して

青森大学　経営学部3年

陶　淳（中国）

私は陶淳と申します。中国江蘇省の蘇州から参りました。青森大学経営学部に入学し、今年 3 年生になりました。

2007 年、すなわち平成 19 年、私は留学生として青森に来ました。飛行機から降りて、日本の土地を踏んだときは、とても感動していながら、同時に多少の心細さも感じました。何と言っても、私は、子供のときから親と一度も離れたことがなかったのですから、自分ひとりで、この国で本当に生きていけるのだろうかと悩んでしまいました。しかし、昔から、私は複雑な物の考え方をする人間ではありません。他人にできるなら、自分もできるはず。そう思って過ごしているうちに、2年が経ってしまいました。この2年を振り返ってみると、大変なこともあれば、面白いこともありました。

それは、文化の違いから生じることです。同じ人間ですが、国により、人によって、習慣が違ってきます。しかし、私はそれこそが文化だと思います。私は中国に生まれ、中国人として育ってきました。自分の国にいたときはいつも普通と思ってやっていたことが、日本では通じないことがあります。例えば、電車に乗るとき、5 人が座れる長い席があるとしたら、中国人は 1、2、3、4、5 の順番に座っていきますが、日本人は、1、3、5、2、4 の順番で座っていくように思われます。これは小さいことかも知れませんが、これこそ文化の違いだと思います。

中国では今、教育問題が大事になっています。中国の中学校の授業は、朝 8 時から 11 時半までが午前、13 時から 17 時半までが午後ということで、毎日大変です。授業の内容も多く、数学・国語・英語など、合計 8 種類の授業を受けなければなりません。高校はもっと大変です。学校に行く目的は知識の勉強、それだけです。ある先生から聞いたことですが、日本の学校の目的は、子供たちがお互いに友達を作ることだそうです。とは言っても、もちろん勉強はするでしょうが。しかし、日本と中国では、両国の基本的教育方針は、絶対に違うと思います。このことから言うと、日本の学校は中国より楽かも知れませんが、実は決してそうじゃありません。というのは、日本には、知識をいっぱい勉強させられる塾があるので、そこは中国の学校よりも厳しいのかも知れませんね。

言葉の問題は、留学生の誰にとっても大変だと思います。少なくとも、私はその中の一人です。私は日本に留学するため日本語を勉強してきました。ですが、日本に来て、実際学校で授業を受けるとき、先生の話されることが全然聞き取れませんでした。また、買い物のときも、すごく面倒でした。自分が何を買おうとしているのかを、スタッフにうまく伝えられないうえに、スタッフからの話もよく理解できません。今思い出してもとても辛かった。その後、大学で日本語の授業を受けたり、日本人と話したりして、段々聞き取れるようになってきました。

また、ある時から日本語のしゃれも少しずつわかってきました。最近あるアニメを見ています。そのアニメの登場キャラクターの名前の中に、名前が<結野あな>というのがあります。最初見たときは何も感じられなかったのですが、今は、はっきりとわかりました。

なんと…。とてもびっくりしました。分かる人には分かると思います。同じパターンのものがいくらでもあります。中国では、しゃれだとしてもこういう名前を堂々とつけることはないと思います。また、ある一人のアメリカ人がいるとして、その名前がウィル・スミスだとします。彼の周りの人々は風邪をひくのに、彼には何もありません。何故か分かりますか。そのスミスの最初のスを左に移します。そうすると、ウィルス・ミスに変わってしまいます。これなら理解できるでしょう。日本には、言葉のしゃれを上手に使った落語というものがあるそうですね。できれば、私も、これから勉強してみたいと思います。

言葉というものは実に面白いです。言葉の違いによってしゃれの面白さも違ってくると思います。大きく見ると、これも文化の違いでしょう。私は日本にいる時間を大切にして、自分の見聞をどんどん広げていき、いろいろな能力を身につけたいと思っています。これからも、毎日一生懸命頑張って日本を理解したいと思っています。

あっという間に４ヶ月が過ぎて

八戸工業大学 電子知能システム学科1年

賈 向穎（中国）

2009 年 3 月 12 日は私にとって特別な日になりました。この日私は留学の道に足を踏み込みました。あの日。自分の夢を持って、3 時間の飛行、はるばると海を渡って、新しい国に来た。新しい環境への適応、言語の不慣れに対する不安と、内心の寂しさに押しつぶされそうだった。飛行機から降り立ち、空港を離れて、街まで歩くと、新鮮な空気、藍色の空、いくつかの心地良さ、少し親しみを感じた。だが、同時に、どうしたらよいか分からない困惑もあった。

あれから、時間は速く、壁掛けのカレンダーは 1 ページ 1 ページ瞬く間にめくられていった。もうすでに 4 ヶ月経った。私はこの 4 ヶ月の間に自分が変わることを経験した。

無数の一回を、無数の「これまでなかった」ことを経験した。多くの小さい細い点、小さい騒ぎ、毎日の苦労、これらをすべて言い出すことはできない。しかしこれらはしっかり私の心の中に貯まった。本当はこれだけで充分！

例えばこんな日もあった。私は 5 月生まれ。1 年前の 5 月は、大学で学友と一緒に誕生日を過ごした。とても懐かしい。とうてい忘れられない。今年の 5 月は、全く違った。誕生日がすべて週末とは限らない。独り学校で過ごすほかなかった。しかも、友達の祝福もなかった。ただ自分一人だけが、今日が自分にとって特別な日なことを知っているだけだった。私は一人で「誕生日おめでとう」と呟いた。

これから、私はどのように変わることができるのか。更に強靭に、更に成熟して行くのか。自分のする事は、絶対に他の人が関与することはできるはずがない。両親は子どもに血肉をあげるが、しかし、魂は子供が自分自身で創造し発展させるものだ。

いつも父母は聞きます、「私の子供は成人してすぐ出国したのに、ちゃんと自立した生活が送れていますか？自分ですきなことばかりしているんではなしでしょうね。ちゃんと学業に励んでいますか？」と。この4ヶ月の自らの体験を通じて、私は、今、両親がいない情況でも、ちゃんと、一人で、更に楽しく、自主的にすることができると感じている。だから、お父さん、お母さん、安心して！

この 4 ヶ月の間に、自分の成長を見て、自立を見て、未来まで見て、これからも何も心配することはないと思っている。日本での留学生活が更にすばらしいものになると信じて、これからも頑張ります！

ありがとう

北里大学大学院　獣医畜産学研究科博士課程獣医学専攻4年

リャンラクオン・ジュアンギャイ （タイ）

私は、両親と兄、二人の姉に囲まれて育ちました。私は末っ子で、家族全員にかわいがられてきました。最初に、日本に来て勉強することになった時、うれしいと同時に心配になりました。私は、自分の夢を実現できるのがうれしかったのですが、家族から遠く離れて一人で外国で生活するのを怖く思いました。

私は何冊かの本で日本について知っていましたが、それでも心配でした。十和田市に着くと、私の心配はだんだん小さくなりました。なぜならそこは、山と松に囲まれた小さなきれいな町だったからです。

1 年を通して、私は「色」の変わっていくのを楽しんでいます。春、私は桜を楽しみます。そしてサクランボもおいしいです。夏、私は自転車に乗って町の周辺を走り回り、花火を楽しみます。秋、木々の葉が色づくのを楽しみます。焼き芋もおいしいです。冬、私は毛布の中で小さくなっていると幸せです。窓には雪が沢山降っています。

もっとも大事なのは、私は周りの人たちのおかげで、ちっとも寂しくないし友達がいないと思わないことです。彼らは、素敵で優しく、友好的で、いつでも笑顔で助けてくれます。私は皆さんに有り難うといいたいです。私は、大学院の指導教員と生理学研究室の皆さんに特に感謝しています。彼らは、私が楽しく幸せに学べる環境を作ってくれます。

マレーシアという国

八戸工業高等専門学校 物質工学科第４学年

ノル・アイニ・ビンティ・シャフッディン（マレーシア）

私はマレーシアから参りました、アイニと申します。2008 年3月の27日に、この素晴らしい国に着きました。六日間ぐらい東京で、他のマレーシア人の学生と過ごした後、八戸へ来ました。新幹線から降りて、急に寒く感じて、すごくびっくりしてしまいました。やっぱりマレーシアと全然違います。

マレーシアは一年中暑い国です。気温はだいたい25℃で、過ごしやすい。民族がいろいろあって、とても平和な国だと思います。国教はイスラムです。だからマレーシアはイスラムの国だと言われています。他の宗教はヒンドゥー教や仏教などもあります。

民族がいろいろあったので、いろいろなおいしい食べ物や宗教的の休みの日などあります。例えばナシレマクやサテーなどの食べ物があります。ハリラヤ（断食一か月間後のお祝い）の時、いろいろな特別な食べ物が作って置きます。例えばルンダン（チッキン・ベーフのスパイス煮）や、ロントン（特別なご飯）などある。ムルック、ココナツのビスケットや、ドドルというお菓子がハリラヤの二週間前ぐらい 作って置きます。私はよく母と夜遅くまでいろいろなお菓子を作ります。とてもたのしいです。今年の夏休みには帰国するチャンスがあるから、お菓子を作ることを楽しみにしています。

ハリラヤ、タイプサムや、クリスマストなどという宗教的のお祝の日もあって、みんな一緒に祝います。例えば、ハリラヤの時、マレー人だけでなく、インド人と中 国人もお互いに近所の家へ行きます。一緒にルンダンを食べたり、話したりします。それは関係をもっと深くなるためです。

マレーシアにはたくさんの果物の種類があります。ドリアン、ランブタンやチクなどの果物があります。とてもおいしくて、安く買えます。ドリアンはにおいが臭いですが、甘くて、私が一番好きな果物であります。もし一回食べたら、もっと食べたい気持ちがぜったいにくるでしょう。ランブタンは一つの面白い果物です。外の部分は髪の毛みたいです。色が二つあります。赤色と黄色いです。手に入れるのは簡単です。

マレーシアにも観光地がいっぱいあります。国立公園は46個ほどあって、34個のビーチがあります。他は滝や、山や伝統的な建物などあります。だからマレーシアは観光客で一年中いっぱいです。

マレーシアはとてもいい国だと思います。人々が親切で親しみやすいです。だから私はいつまでもマレーシアを誇りに思います。本当にマレーシア人として生まれたのは良かったと思います。ぜひ、皆さん、もし機会があったらマレーシアへ行ってみてください。

私は青森が好きです

青森公立大学　経営経済学部3年

梁　リナ　（韓国）

青森市と私の地元である韓国の平澤市は、1995年の友好交流協定の締結以降、これまで教育・文化・農業分野での交流を進めています。

私は、高校2年生の時にその交流の一環として青森市の高校生12人を平澤市に招いた交流会に参加しました。平澤市からも12名の高校生が参加し、2人1組になってのホームステイや、両国の文化を深めるプログラムに参加したりしながらお互いの国を理解しあう交流会でした。4泊5日という短い時間でしたが、私たちは固い友情で結ばれ、交流が終ってからも、私は青森の友達とメールや手紙のやり取りを続け、日本語の勉強はもちろん日本についてもっと勉強したくなりました。そして高校3年の夏休みには、その友達の招待を受け、1人で青森に来ることができました。

私にとって初めての日本である青森は、ねぶた祭りのパッションと和やかな雰囲気が感じられ、一週間の旅で、私は青森の魅力にすっかり心がひきつけられました。その後、私は青森市と平澤市の交流の一つである青森公立大学への留学のための勉強を始め、青森にいる友達やその家族、また交流会で出会った韓国の友達などの応援に支えられ、2007年、ついに青森公立大学へ留学することができました。交流会の時、高校生だった私達は、皆いつの間にか大学生や社会人になりましたが、今でも交流は続き、とても仲良くしています。中には、私以外にも日本に留学に来ている友達や、逆に韓国に留学に来た友達もいます。中々みんなで会うことは出来ませんが、たまに連絡を取り合うとみんなそれぞれが、それぞれの方法で日韓交流に関わっていて嬉しく思います。

大学入学後、私は学内の韓国サークルを始め、あおもりコリアネットワークというNPO団体で一般市民の方に韓国語や韓国文化について教えるなど、青森の国際交流に積極的に参加しています。青森の方達だけではなく、青森にいる他の国の方達との交流も、私にとってとても楽しいことです。一緒に様々な国の料理を作って食べたり、お互いの言語や文化を教え合うことで、ひょっとしたら寂しかったかもしれない留学生活も、とても楽しく過ごすことが出来ています。また、春の弘前桜祭り・夏のねぶた祭り・秋の八甲田山の紅葉・冬の雪といった青森の四季も、私の留学生活に活力を与えてくれています。

卒業後、韓国に帰るか青森に残るかは、まだ分かりません。でもいずれにしても、私の「青森が好き」という気持ちは変わりません。どこにいても、青森でもらった様々なことを忘れないで、私ができる限りのことを青森のためにやって行きたいと思っています。

青森の皆さん、よろしくお願いします。

「はじめまして！青森！」

青森中央学院大学大学院 地域マネジメント研究科2年

チョーティパン・ワシニー（タイ）

日本といえば、外国の人たちがすぐ思い浮かぶのは、日本の首都である東京都、清水寺や金閣寺など日本を代表する神社仏閣が存在する京都、オフィスビルが立ち並び、活気に満ちた大阪、といったところだろう。しかし、日本の中には、伝統文化や美しい自然に囲まれるところがまだまだいっぱいある。青森もその中の一つだ。

私が、初めて青森と知り合ったのは去年だった。

タイのカセサート大学を卒業し、3 年間日系企業で働いていた後、青森で進学すると決意した。それにもかかわらず、青森のことをあまり知らず、長期間自分の生まれ育ったタイという国を離れたことのない私は、不安と心細い気持ちが溢れていた。「青森ってどんなところだろう」、「青森で一人暮らしをすることができるだろうか」など、悩みの言葉を延々と頭の中で繰り返していた。しかし、将来のため、「前に進む」という意識を持って、青森へ向かった。

2008 年 9 月 12 日、自分の将来を不安に感じていた私は青森に到着した。その日、青森中央学院大学の職員が空港まで迎えに来てくれた。青森中央学院大学に向かっている車の中で、青森の美しい自然風景が目に入って、穏やかな雰囲気を味わって、いつの間にか気持ちがすっかり落ち着いた。その時、「こんな落ち着いた雰囲気があるところなら、もう心配いらないじゃないか」と私は心の中で自分と話した。そして、そのようなファーストインプレッションから始まって、青森の魅力がまだいっぱいあるだろうと思った。結局、その魅力がどこにあるかをこれから 2 年間自分の目で見ようとし、青森での新しい生活を楽しもうと思い直した。

その日から今までもうそろそろ 1 年になる。この間、豊かな自然、四季を通じてさまざまな魅力を満喫できた。また、青森の気候、歴史、文化に基づいた独自の食文化と地域文化も体験できた。さらに、いくつかの国際交流活動に参加することができた。それぞれがさまざまな印象を私に残した。

【自然・四季】

雪：私の出身地であるタイでは、年間平均気温約 28℃で、雪が全く降らない。そのため、青森の冬、自分の初めての雪をずっと楽しみにしていた。そして、11 月に入り、やっと初雪がきた。空から降っている美しい雪の結晶を見、知らず知らずのうちに窓を開け、雪の結晶を触ろうとした。部屋の窓から見た初雪の風景は今でも心の中に残っている。私にとっては感動的な初雪だった。

ASOSA

留学生の声

【食文化】

ほたての貝焼き味噌：大きなホタテの貝がらを鍋にして、だし汁にみそと卵をといて作る青森の郷土料理である。冬の寒い日にその珍しい貝がらの鍋料理は青森らしい雰囲気を感じた。

【国際交流】

2009 ジュニアグローバルトレーニングスクール：この 3 日間の活動では、青森市内の小学生、違う国のスタッフと一緒にゲームをし、交流活動することができた。短い期間だったが、みんなの笑顔と笑い声はこれからずっと忘れられない思い出になる。

青森に来て、初めて青森ならではのこと･ものが体験できた。それらは私の 11 カ月の青森留学生活を楽しみ、喜び、感動であふれさせていた。そして 1 年後、青森の魅力にどのように出会うか、どのようなことと触れ合うかをもっと楽しみにしている。

青森、これからもよろしく。

10 年後の自分へ

青森中央学院大学　経営法学部3年

ウン・シューキ （マレーシア）

10 年後の私、働く女性として、母親として、妻として、娘として、一生懸命がんばっているだろうか？今の私、未来のことすごく期待しているけど、どんな生活を送っているかな？

目標がなければ生きていけないという信念を持ち、目標を持てばこそ、前に進むことができます。浮き世は長くとも人生は短く、目標を持って生きてこそ人生は無駄にならないのです。私は今、10 年後の自分のため、目標に向かって努力しています。

両親と相談したあげく、ようやく日本に留学することが出来ました。日本に留学できることのうれしさと感謝の気持、心にあふれました。そして、その気持ちを促進力に、この先辛くても諦めずに進めるようにします。

さすがに憧れていた日本、初めての冬はどんなに興奮したか、言葉に全然できないくらいでした。マレーシアより和食を安く食べることができたり、大好きなのんびりとした日本のテレビ番組を見たり、カラオケで思い切り日本の歌を歌ったりして、そのうれしさは鐘のように心に繰り返し鳴り響きました。自分の国や家族を恋しく、毎晩泣くほど人もいますが、私は、日本は自分の第二故郷みたいに安心するというか、マレーシアや家族が恋しいという気持ちがありませんでした。青森にいて冬の寒さと寂しさを感じない事を私はすごく自慢していました。

二年目の冬は覚えているかな、初めての冬と違う、骨まで感じる寒さと寂しさを味わいました。試験の直前、大好きなおじいさんが亡くなった知らせが耳に入りました。おじいさん最後の姿を見に、試験を捨ててでも国に帰りたいと思いました。帰られなかった孫はただ私のみでした。初めて、家族を恋しくなりました。その冬、どんなにたくさん涙を流したか、魂は抜け、もはや体も冷凍死してしまいそうな状態を、ある暖かい光が救いました。この傷ついた魂を癒し、この冷たい体を暖めてくれたのは友達でした。みんなに世話になり、いっぱい慰められ、初めて、友情の強さを感じました。日本に来てからの間、友達がずっとそばにいてくれたんだとはっきり感じました。この年の冬にはいろいろあったけど、自分が成長した気がします。

さあ、今年、三年目の冬はどうなるかな？10 年後の私、ここまで読んだころにはきっと笑っていますね。なにが起きたかもう知っているから。今の私は、将来、日本にいる間にいっぱい成長した自分がいることを願っています。10 年後の私、日本に身につけた経験や知識は覚えているよね？日本にいた思い出絶対忘れないで欲しいです。日本にいた思い出が体の一部になっていて欲しいと思います。今の私は未来が後悔のないようにがんばります！

10 年後の私、幸せに！